

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 13 No.20 2011年10月31日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2011 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

パイオニアソリューションズ、ディスカッション テーブルのキャリアブルスタンドモデルを発表

パイオニアソリューションズ株式会社(神奈川県川崎市)は、
コラボステーション「WWS-CS101」を発売した。(10月11日)



コラボステーション「WWS-CS101」(パイオニアソリューションズ資料)

コラボステーションは、PC、デジタルカメラ、タブレット、スキャナー(紙資料など)などから取り入れられたデータをディスプレイ上にすばやく表示し、加工編集が行える情報コミュニケーションツール。同社がすでに販売している「ディスカッションテーブル」のキャリアブルスタンドタイプとして提供する。



利用シーン(イメージ)
(パイオニアソリューションズ資料)

両者とも機能については基本的に同じ

であるため、コラボステーションは、ペーパーレスで効率的に会議が行えるとともに、キャリアブルスタンドタイプであるため簡単に移動できる点が特徴である。

「ディスカッションテーブルと同じように、このコラボステーションは、ペーパーレス化や効率的な会議に有効なツールとしての位置づけとなっている。」(パイオニアソリューションズ)

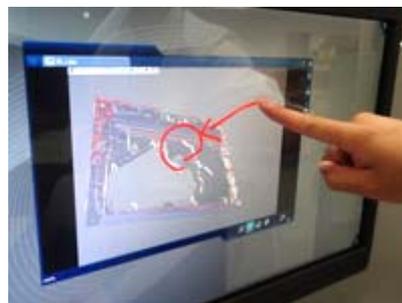
コラボステーションは、データの取り込みと表示、そして加工・編集に特長がある。



表示例：パソコン画面表示(無線ネットワーク接続)パイオニアソリューションズ資料)

まずデータの取り込み機能「メディアハブ」については、無線LANやUSBポートを

使い、外部デバイスから取り入れられたデータをコラボステーションの22インチ(1920x1080ピクセル)の画面にすばやく表示する。また、静止画やハイビジョン動画、PCの画面など複数のコンテンツを同時表示できるほか、自動的にフル画面表示するディスカッションモードも搭載している。ちなみにこのコラボステーションは、音声出力端子も搭載している。



コンテンツは、青い枠(カード)の中に表示させることで拡大縮小、書き込みが可能。(パイオニアソリューションズ資料)

加えて、コンテンツは、簡単に画面上で指操作ができる

機能「カードオペレーション」に対応している。このタッチパネル操作により、複数の参加者が、表示されたコンテンツを拡大



縮小や回転・移動したり、書き込みしたりすることができる。

写真上：表示されたコンテンツの比較

写真中：複数コンテンツを1枚の資料に



写真下：ページフリップ表示

(パイオニアソリューションズ資料)

また、「表示マネージメント」機能を使うことで、コンテンツを一覧表示して比較したり、大きさを変えて配置させたり、1枚の資料にまとめることができる。さらには、本のページをめくるようにコンテンツを表示する



る「ページフリップ表示」などもある。

この他、コンテンツをサブディスプレイ(最大2台、別売)にも表示する機能や離れたところから会議に参加できる遠隔会議機能も搭載する。サブディスプレイを使ってコンテンツを複数同時表示したり比較表示したりすることで、分かりやすいプレゼンテーションを行える。一方、遠隔会議機能では、同社の「サイバーカンファレンスシステムプライム」(別売)と接続して使用できる。その際には、遠隔地のPCへ同じコンテンツを表示させて同時に書き込みを行うことができる。

「パイオニアソリューションズとしては、今後ペーパーレス化や会議をどう効率化するかという点を中心に製品展開をしたいと考えている。ディスカッションテーブルやコラボステー

ションは、この戦略上に位置づけられる製品となる。」(パイオニアソリューションズ)

コクヨ S&T、フルハイビジョンテレビ会議をモバイル環境で実現するシステムの受注生産開始

コクヨ S&T 株式会社(大阪市)は、10月12日から「meetima XVD モバイル」の受注生産を開始すると発表。(10月5日)



XVD モバイル (コクヨ S&T 資料)



XVD モバイルの使用イメージ (コクヨ S&T 資料)

XVD モバイルは、同社が既に販売しているテレビ会議システム「meetima XVD コミュニケーションシステム」をモバイル環境で使用できるオールインワン移動式テレビ会議システム。

XVD モバイルは、1Mbps 帯域でフル HD に対応した meetima XVD のコーデック、10.1 型ワイド TFT モニター (1,024 x 600)、カメラ、スピーカ、マイク、バッテリー、リモコ

ンをコンパクトなキャリーケースに収納し、モバイル回線を接続することで、高品質なテレビ会議が屋外環境でも行える。出張先や車中などでのモバイルテレビ会議の他、講演会や工事・作業現場の中継など XVD モバイルによって使用シーンの拡大が期待できると同社では説明する。ちなみに、会議モード(同時会話可能数)は、5 拠点、また講義モード(同時配信可能数)は、10 拠点まで対応。

コクヨ S&T、SD 画質で最大 24 地点対応した多地点接続ユニット発売

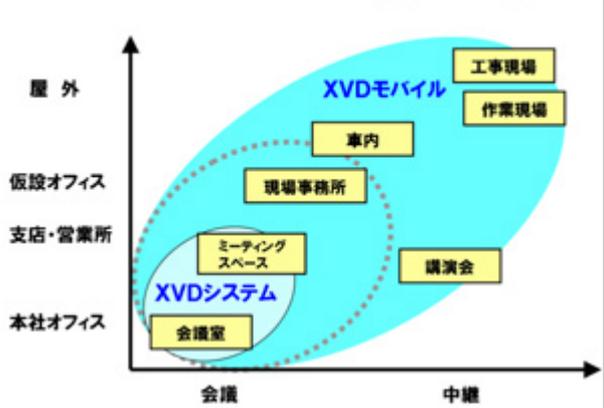
コクヨ S&T 株式会社(大阪市)は、11 月 1 日からテレビ会議システム多地点接続ユニット(meetima XVD-MCU)の販売を開始すると発表。(10 月 11 日)

XVD-MCU は、HD 画質(1280x720、帯域~1024kbps)では 12 拠点、また SD 画質(848x480、帯域~512kbps)では 24 拠点、さらには CIF 解像度(384x288、帯域 128kbps~256kbps)では 90 拠点の多地点同時接続が行えるようになっている。

「meetima XVD コミュニケーションシステム」(2009 年 10 月に発売)は単体で最大 5 拠点での同時会話を行うことができるが、昨年からは 6 拠点から 19 拠点を要望するユーザーが増えたため、今回 XVD-MCU を販売開始することとなった。

XVD-MCU の特長は以下の通り。(1)画面レイアウト:可変レイアウトでは、接続拠点数に応じて画面レイアウトが変更する。最大 6 画面(接続拠点数は 7 拠点)の表示が可能で、8 拠点以上からは、音声を発した拠点の映像が①(下レイアウト図)の位置に入り、その他の任意の 5 拠点が画面に表示される形になる。

●XVDモバイルによる使用シーンの拡大



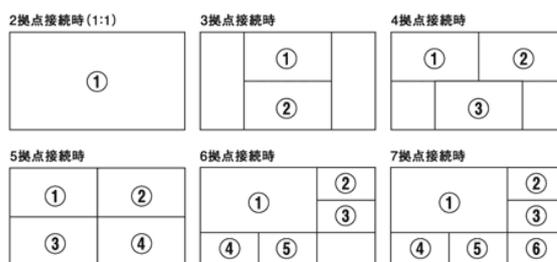
他、XVD モバイルには、HDMI など映像音声の入出力コネクタを搭載。XVD モバイル単体での使用だけでなく、会議室に既設されている大型のディスプレイやマイクなどの AV 装置と接続することができようになっている。

AC 電源で使用できるほか、付属品のバッテリーを接続することで、バッテリー1本使用の場合、約1時間の動作が可能。加えて、バッテリーは 3 本まで搭載することができるので最大約 3 時間の連続動作が可能。

さらにネットワークについては、XVD モバイルに搭載している LAN ポート(2口)を使用する。128kbps からの接続が可能のため一般的な固定のインターネット回線のほか、WiFi や WiMAX などのモバイル回線まで対応する。

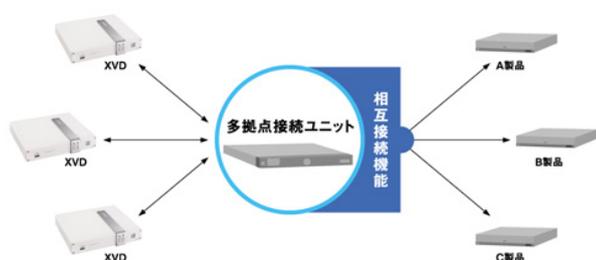
本体の外形寸法(突起物含む)は、約 H590 x W390 x D240(mm)。本体重量は、約 16.7kg。

価格は、オープン価格。販売方法は、受注生産(受注~納品 約1ヶ月)。同社の売上目標は、発売後 1 年で 50 百万円を目指す。



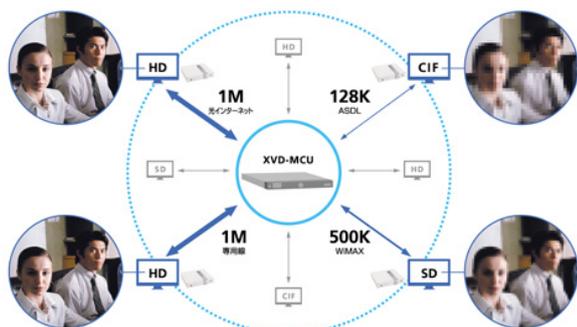
XVD-MCU レイアウト例 (コクヨ S&T 資料)

(2) 他社機との相互接続に対応: XVD-MCU は相互接続機能を内蔵しており、H.264/AVC を採用した他社製のテレビ会議システム(H.323/SIP)と相互に接続することができる。



他社機との相互接続イメージ (コクヨ S&T 資料)

(3) 拠点毎に最適な帯域・解像度での通信に対応: 少ない帯域の拠点が含まれていても、1 拠点毎に帯域に応じた画質での接続ができる。従来の方式では、少ない帯域の拠点到他の拠点が合わせる形をとっていた。加えて、XVD-MCU において接続可能な帯域の下限を下げたことにより、これまで接続できなかった拠点も接続することが可能になった。



拠点毎に最適な帯域・解像度での接続例 (コクヨ S&T)

販売価格は、オープン。コクヨ S&T によると発売後1年での売上目標は、70 百万円。

ブイキューブの Web 会議スマートフォンやタブレットに対応

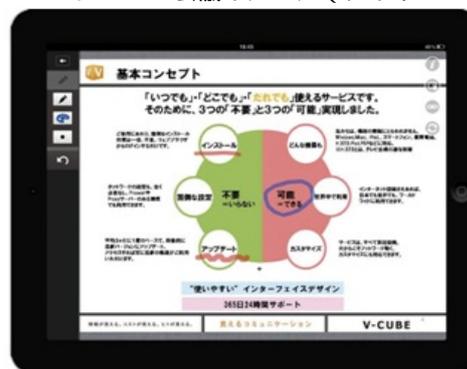
株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、「V-CUBE モバイル」の提供を開始した。(9月27日)

V-CUBE モバイルは、同社の主力サービスである Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」にタブレットやスマートフォンなどモバイルデバイスでの参加を可能にするもの。V-CUBE ミーティングおよび V-CUBE ペーパーレスのオプション機能として無償でサービスを提供する。

ン機能として無償でサービスを提供する。



iPad での Web 会議イメージ (ブイキューブ 資料)



資料共有のイメージ (ブイキューブ 資料)

V-CUBE モバイルに対応するタブレットは、「iPad」「iPad2」「GALAXY TAB」「Optimus PAD」「XOOM」、 「BlackBerry」「Playbook」。またスマートフォンについては、「iPhone4」「iPod Touch 4th」「GALAXY S」の各機種が対応する。なお OS のバージョンなど確認する必要あり。

この V-CUBE モバイルを活用できるシーンとしては、ブイキューブでは以下を想定している。(1) 顧客先への営業訪問時にオフィスにいる技術者が専門的な説明でフォローする。(2) 広い工場や生産現場など居室がない場所でのミーティング。(3) 不動産のリアルタイム物件案内。(4) 本部と小売店舗との商品情報などの共有。(5) 顧客先に常駐している社員とのコミュニケーション。

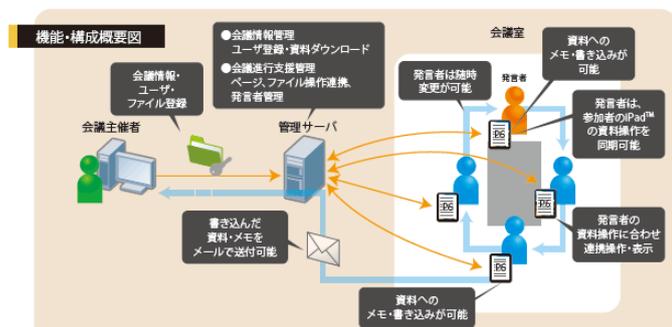
みずほ情報総研、ペーパーレス会議ソリューションを発売

みずほ情報総研株式会社(東京都千代田区)は、ペーパーレスの会議運営ソリューション「MHIR+SMART-1(エムエイ

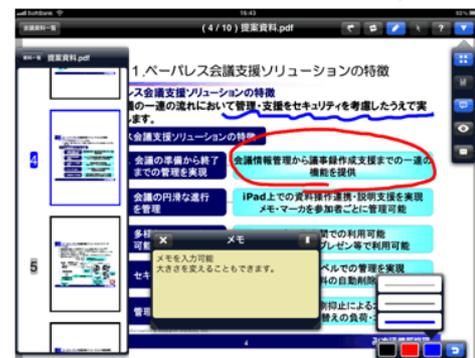
チアイアール スマート ワン」を10月12日から発売すると発表。(10月5日)

MHIR+SMART-1 は、iPad を用いて会議用資料の管理・配布から会議の円滑な進行、議事録の作成にいたるまでペーパーレス会議の運営に関する業務全般をサポートするソリューション。

主な機能は以下の通り。(1)会議情報管理:会議の情報として会議日程、ユーザ、端末、資料を一元的に管理する。(2)会議進行支援:30人程度の会議が可能。また複数会議にも対応する。参加者は各自でページ操作連携(同期/非同期モード)、メモ・マーカーの書き込み、書き込みした資料をメールで送信することもできる。(3)セキュリティ管理:ユーザおよび端末レベルでの認証や資料の保管期間の設定も可能。(4)議事録作成支援:会議中に各端末に録音された音声ファイルを、サーバに集約後、ひとつのファイルに統合してテキスト化する。この技術は、株式会社アドバンスト・メディアの「音声認識技術 AmiVoice」を利用している。



MHIR+SMART-1 機能・構成概要図(みずほ情報総研 資料)



MHIR+SMART-1 画面イメージ(みずほ情報総研 資料)

費用については、サーバライセンスおよび iPad 用クライアントライセンス(50台まで)で350万円(税別)。iPad およびサ

ーバ等はユーザが用意する。ただし、システムの構築・導入についてサポートするという。

なお、みずほ情報総研では、MHIR+SMART シリーズ第2弾として iPad を利用した対面販売ソリューション「MHIR+SMART-2」の発売を11月に予定している。

VTV ジャパン、テレビ会議トータルサポートサービスの新サービスを発表

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は、テレビ会議のトータルサポートサービス「VTV Care」の新サービス「CSP(Conference Service Provider)」の提供を開始。(9月27日)

VTV Care に加入している顧客を対象に、インターネットを通じてプラスαのテレビ会議サービスを提供するもの。現在導入しているシステムに追加導入無しで、社内イントラネットを越えた社外とのテレビ会議打合せや IP/ISDN 混在の会議を行いたいというユーザにお勧めという。

CSP サービスは、以下の3つのサービスを提供する。

(1)「PathFinder サービス」:ネットワークの境界線(ファイアーウォールや NAT)を越えセキュリティ万全で社外とテレビ会議が行えるサービス。(2)「Web 会議サービス」:Web 会議が最大30拠点で開催できるサービス。(3)「ISDN 接続サービス」:ISDN 接続の端末ともテレビ会議が行えるサービス。

CSP サービスを活用することで、取引先など社外ネットワーク上に設定されているテレビ会議端末、ISDNに対応している海外拠点の端末、出張先・自宅の PC など、社外との接続問題を解決し、テレビ会議の利用用途を広げるメリットがあると同社では説明する。

ビジネス動向-海外

ポリコム社、「Polycom RealPresence プラットフォーム」を発表

米ポリコム社は、「Polycom RealPresence プラットフォーム」を発表した。(米国9月14日、ポリコムジャパン10月7

日)

Polycom RealPresence プラットフォームは、旧称「Polycom UC Intelligent Core」で、HD テレプレゼンスソリューションと HD ビデオ会議ソリューションの中核となるソフトウェアインフラストラクチャ。

UC 環境の中心的なハブとして機能し、コンポーネントには、ユニバーサルビデオコラボレーション、ビデオリソース管理、仮想化、ユニバーサルアクセスとセキュリティ、ビデオコンテンツ管理などがある。

ポリコム社のビデオ会議システムは、Polycom RealPresence プラットフォームを通して、数百もの異なるベンダーが提供する以下のようなソリューションやアプリケーションとともに利用できる。

(1) 通話管理: アバイア、BroadSoft、シスコ、IBM、マイクロソフト、シーメンスなどから提供される通話制御システム。(2) Web 会議: アドビーシステムズ、AT&T、シスコ WebEx、Citrix、IBM、Intercall、マイクロソフト各社の Web 会議ソリューション。(3) モバイル: アップル、モトローラ、サムスン、HP などのタブレットやスマートフォン。(4) ソーシャルビジネスプラットフォームとの統合。

なお、この Polycom RealPresence プラットフォームを最大限に展開するためには、インスタントメッセージ、プレゼンス、テレフォニー、Web 会議、ビデオコラボレーション、モバイル、ソーシャルメディア、ネットワーク、セキュリティなど各領域のパートナーソリューションとの統合や、クラウドベースの「ビデオサービス (Video as a Service)」の提供に向けてサービスプロバイダーとの提携と OVCC 設立が鍵を握るといふ。

ポリコム社、ハードウェアに依存しないプラットフォームを軸とした成長戦略を発表

米ポリコム社は、同社の今後の成長戦略の重要な柱になるプラットフォーム戦略を発表した。(米国 9 月 14 日、ポリコムジャパン 10 月 7 日)

このハードウェアに依存しないプラットフォームをベースに、広範囲にわたるビジネスアプリケーション、ビデオ会議アプリ

ケーション、モバイルアプリケーション、ソーシャルアプリケーションなどを HD 品質の映像とセキュアに連携し、真のコラボレーションを実現する。この戦略の展開によって、今後数年間で売上を現在の約 15 億ドルから 30 億ドルに拡大させる計画。

このプラットフォーム戦略を推進していく上で以下のイニシアティブを実施する。

(1) 広範なパートナーとの、国際標準に準拠した相互運用性を実現すること。その際の軸となるのは、「Polycom RealPresence プラットフォーム (旧称: 「Polycom UC Intelligent Core」)。最大 75,000 台のデバイスの登録と最大 25,000 件の同時通話をサポートするユニバーサルブリッジ。ビデオコラボレーション、リソース管理、仮想化、ユニバーサルアクセス、セキュリティ、コンテンツ管理などが含まれる。

(2) この RealPresence プラットフォーム用の新規 API を開発者、パートナー、サービスプロバイダーに提供。ビジネスアプリケーション、課金、スケジューリング、ディレクトリー、管理、モニタリングなどの機能をプラットフォームと高度に統合できるようになる。「Polycom Developer Program」は、2012 年上半期に提供を開始する予定。

(3) 企業向けモバイルビデオアプリケーション。ポリコム社は、アップル社、モトローラ社、サムソン社、HP 社などと協力して iOS、Android、Windows Phone 7 用にモバイルビデオアプリケーションを開発する。

(4) ポリコム社は、Jive Software 社との戦略的提携を発表。ポリコム社の HD ビデオソリューションを Jive Software のソーシャルメディアプラットフォームに統合する。

(5) HD 品質の「ビデオクラウド (Video as a Service)」をサービスプロバイダーと共同で構築する。ポリコム社は、これに先立ち 6 月にビデオクラウドへの取り組みを発表。14 社と OVCC を創設。早ければ 2012 年半ばに、OVCC パートナー各社とオープン ビデオ エクスチェンジ クラウド サービスを市場に提供開始する予定。

展示会レポート(1)-国内

パナソニック、ビジュアルコミュニケーションを今後強化、SOLUTION Japan 2011 開催

パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社は、ビジネス向けソリューションを紹介した総合展示会「SOLUTION Japan 2011」を10月13日と14日に東京都内にて開催した。

展示会では、「つながる価値」と「ひろがるビジネス」をテーマに、各種ビジネスや災害対策シーンにおいて、パナソニックの最新機器が「ネットワークにつながる事で生まれる新たな価値」を具体的に提案する内容。

今回の展示会では、パナソニックのテレビ会議システム「HD コム」やHD コムを使った各種ソリューションも展示。パナソニックとしては、今後 HD コムを核とした映像コミュニケーションへの取り組みを強化していくという。



映像コミュニケーションに関連するものとしては、最近始めたテレビ会議接続サービス「つながるねっと(写真左)」サービスの他、

多地点接続、他社テレビ会議システムとの接続実演、「片方向配信システム」、「非常用映像コミュニケーションパック(参考出品)」、「自動議事録作成システム(技術展示)」などが展示されていた。

つながるねっとサービスは、HD コムユーザ向けのインターネット回線を使用した接続サービス。電話をかける感覚で簡単にテレビ会議が行えるところが特長。利用に際しては専用の7桁の番号(接続番号)での接続の他、暗号化にも対応している。

多地点接続のデモでは、ビデオと音声の混在接続

を実演(写真下)。MCUにはラドビジョン社製MCUを使い、一方端末にはパナソニックのHD コムやIP 音声会議ホン「KX-NT700N」の他、他社製テレビ会議システムやラドビジョン製 Web 会議などが同時に接続。



また、他社機接続実演(写真左)では、ポリコム製、シスコ/タンバーク製など他社製品端末と



パナソニック HD コムの接続性(1対1で接続)を体感できるデモが行われていた。

他社機接続のサポートを強化することで、すでに他社メーカー製のテレビ会議システムを稼働させているユーザ企業において追加購入する場合、

パナソニック製のテレビ会議システムも選択が可能になる。

「パナソニックのHD コムには、VIERA や DIGA で培ってきたH.264 技術を投入しており映像や音声品質の高さを自



負している。他社のHD テレビ会議とも全く遜色がない。加えて購入後のセ

ットアップやテレビ会議時の操作もとても簡単だ。コンシューマ製品で培ったノウハウがある。」(パナソニック)

一方HD コムの応用ソリューションとしては、HD コム配信システム(写真上)。HD コムを30台までピラミッド階層型に連結することで、配信する映像データを分散し全体のネットワークへの負荷の少なくするとともに、ローコストで高画質の配信を可能にする配信ソリューション。配信中に階層型に接続している任意のHD コム端末Aに障害が発生しても、その下位に位置している別の端末Bがその障害発生した端末Aの配信制御をシームレスに引き継ぐ機能を持たせているため、配信が途切れることはないという。



次に、非常用映像コミュニケーションパック(参考出品)(写真上)は、HD コムと液晶ディスプレイ(19イン

チ)、マイク、スピーカ、無線LAN、バッテリーなどを内蔵した可搬ケース入りのオールインワンパッケージ。電源は、バッテリーの他、AC、カーソケットにも対応。またネットワーク接続は、同軸で最大2KmまでLANを延長できる同軸LANコンバーターを組み込み、自営のLANを簡単に構築できるようにするだけでなく、固定と無線LAN、5GHz帯無線にも対応する。「HD コムの高品質な映像と音声をそのまま屋外でも活用できる。工場、プラント等、フィールドワークでの利用を想定。災害時の復旧作業への活用にも使える。」(パナソニック)

最後に、自動議事録作成システム(技術展示)は、HD コムで運用されているテレビ会議の各発言者の声をそのままテキスト化するシステムと組み合わせ、会議内容をまとめるために必要な録音とテキスト化といった従来人手に頼っていた作業を自動化し簡易な議事録を作成する。

「パナソニックとしては、テレビ会議システムとしての性能や機能向上だけに留まらず、会議をよりやりやすくする機能や、ビジュアルコミュニケーションの用途の広がりに対応したさまざまなアプリケーションにも対応していきたいと考えている。」

展示会レポート(2) -国内

日経BP社主催ITpro EXPO 2011 10月12日～14日(東京ビックサイト)

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/index.html>

いくつか企業をピックアップしてレポートします。

コクヨS&T



コクヨS&Tは、同社が展開するフルHD対応テレビ会議システム「meetima XVDコミュニケーションシステム」の他、10月上旬に発売された



「meetima XVD-MCU」と「meetima XVDモバイル」を展示。またオフィスコミュニケーション複合機「Mondopad」を参考出展。

XVD-MCUは、SD解像度で24拠点、HD解像度12拠点の多地点

会議が可能。異速度通信やH.323/SIP他社メーカーも対応。会議モードや講義モードで多様な使い方をサポート。



meetima XVD モバイルは、XVD のコーデック、10.1 カラーモニター、カメラ、マイク、スピーカ、各出入力、バッテリー(約 3 時間)をスーツケースサイズに内蔵。WiMAX などのモバイル回線環境を用意することで、講演会、工場、災害などテレビ会議の用途を広げる。

げる。

Mondopad(参考出品)は、55 インチタッチパネルを搭載し、XVD-MCU を介してテレビ会議が可能。WiFi を利用して Mondopad 同士やスマートフォン/タブレットとも資料共有が可能。資料にはアノテーションに対応している。

パイオニアソリューションズ



パイオニアソリューションズ株式会社は、遠隔会議ソリューション「サイバーカン

ファレンス システム・プライム」やタッチパネルに対応した「ユビキタス・ステーション」、また、効率的な会議運営を可能にするコラボレーションツール「ディスカッション テーブル」、ディスカッション テーブルのキャリアブルスタンドモデル「コラボステーション」(10 月上旬に発表)を展示。

コラボステーションは、22V 型 LCD 搭載型。PC、デジタルカメラ、タブレットなどのコンテンツを取り入れすばやく画面上

に表示。参加者全員で加工編集が指先で行えたり、外付け



のディスプレイに共有しているコンテンツを指先操作で簡単に表示させたりなどの操作環境は、ディスカッションテーブルと同じものを提供している。ディスカッションテーブルは備え付けのシステムであるが、一方コラボステーションは、簡単に移動できるよう

になっている。加えて、ディスカッション テーブルと同様、オプションで遠隔会議システムとの連携機能も用意している。

プリンスンテクノロジー



プリンスンテクノロジー株式会社は、「いつでも」「どこでも」「高品質に」つながる最適なビデオコミュニケーションをテーマに、ポリコム、Vidyo、Audisoft 各社が提供する 3 つのシステム



すべてが接続連携できるビデオコミュニケーションソリューション

ションを展示。

プリンストンテクノロジーは、ポリコム販売代理店(プラチナリセラー)としての長年の経験をベースに、ポリコムの HD&多地点ビデオ会議システムをコアに、作業現場などフィールドワークに活用できる Audisoft 社のウェアラブルなモバイルビデオソリューション(ポリコム ARENA 認定製品)と、スマートフォンやタブレットにも対応した Vidyo 社のビデオ会議システムをユーザの利用目的、活用スタイルに合わせた最適な組み合わせで提供していく。

日立製作所



日立製作所は、10月5日に発表した Android 端末から Woolive に参加できるオプション機能を展示。Woolive は、今回のオプションで従来の専用機からデスクトップに加え、スマートフォンまで対応する。固定から 3G や WiFi 無線環境での映像コミュニケーションが可能になり、利用用途や範囲が広がると会社では期待する。H.264/SVC 対応によりモザイクのない安定した映像品質を実現。

ラドビジョンジャパン



写真(上) RADVISION ブース



写真(中) SCOPIA XT Telepresence(実際は 50 インチディスプレイを 3 台並べる)

写真(下) SCOPIA Mobile V3

RADVISION Japan 株式会社は、NBU 製品と TBU 製品の両方をブー



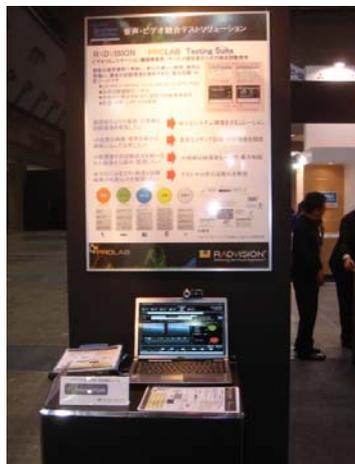
スにて紹介。NBU 製品については、モバイル、PC、専用端末、テレプレゼンスによる HD ビデオ会議システム「SCOPIA」の展示。

SCOPIA XT Telepresence では、テレプレゼンスシステムを構築する上でベースになる

コーデックやカメラ部などをラドビジョンで提供。あとは、ラドビジョンの推奨条件とユーザのニーズをベースに、販売代理店が、ディスプレイ(基本は 50 インチ)やテーブル、椅子などを組み合わせて構築する。ユーザニーズに柔軟に対応できパッケージになったテレプレゼンスよりも低コストでかつ柔軟に導入が可能という。

SCOPIA Mobile V3 は、10月12日からアップルストアを通じて無償にてダウンロード可能な iPhone/iPad 対応クライアント。共有資料はコンテンツスライダー対応。会議中に共

有されている資料の後戻りが可能。分割画面数によって帯域変わらず。720p 解像度、28 画面分割まで対応。1会議室に300同時接続。1システムで 1000 拠点同時接続可能。」



評価解析ツールを展示

TBU 製品については、HD ビデオ会議端末開発用 SDK「BEEHD」と評価・解析ツール「ProLab」、 「eVident」を展示。

同社の評価解析ツールは国内でもネットワークサービス事業者などで採用されている。ネットワーク上に

流れるビデオパケットをフレーム単位でこまかく分析でき、たとえば映像品質の問題について細部にわたり原因の特定と対処方法を把握できる特長がある。

セミナー・展示会情報

<国内>

会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程:11月2日(水)、9日(水)、16日(水)、30日(水)
 ※全ての日程で13:30~14:30、15:30~16:30の2回開催
 会場:NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)
 主催:日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ
 詳細・申込:
<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformmeeting/seminar.html>

【"見える"カレッジ】ブイキューブのタブレット活用術

日時:11月9日(水) 15:00 - 16:30(受付:14:30)
 会場:ブイキューブ本社(中目黒駅 徒歩1分)
 (東京都目黒区上目黒 2-1-1 中目黒GTタワー20F)
 主催:株式会社ブイキューブ
 詳細・申込:
<http://www.nice2meet.us/ja/news/index2.php?id=514&mm=20111024>

Polycom Vision 2011 進化している「伝える力」
 導入企業が語るポリコム次世代型コミュニケーション 伸びる会社はここが違う

日時:11月15日(火) 10:00~17:40 (受付:9:30~)
 会場:東京コンファレンスセンター・品川
 主催:ポリコムジャパン株式会社
 詳細・申込:<http://www.eventreg.jp/polycom2011/index.html>

大阪開催 【Web 会議のプロが直伝】Web 会議運用の思わぬトラブルとその解決策

日時:11月16日(水) 15:00 - 17:00
 会場:キヤノンソフト情報システム 大阪本社(大阪市中央区)
 主催:キヤノンソフト情報システム株式会社
 詳細・申込:
<http://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=1286>

Cisco Plus Japan 2011

日時:11月17日(木)~18日(金)
 会場:セルリアンタワー東急ホテル
 主催:シスコシステムズ合同会社
 詳細・申込:<http://www.cmarket.jp/ciscoplus/>
 *テレプレゼンス、コラボレーション関連のセッションもあり。

【Web 会議のプロが直伝】Web 会議運用の思わぬトラブルとその解決策

日時:11月22日(火) 15:00 - 17:00
 会場:キヤノンソフト情報システム 東京支社(東京都豊島区)
 主催:キヤノンソフト情報システム株式会社
 詳細・申込:
<http://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=1287>

『ビデオ会議システム 円滑運用のノウハウご紹介』セミナー ~ 複数メーカー新旧混在、異機種間接続を実現して既存システムを有効活用 ~ 東西同時開催

日時:12月7日(木)14:30-17:25 (受付開始 14:00)
 会場:パナソニック電気インフォメーションシステムズ 東京/大阪
 主催:パナソニック電気インフォメーションシステムズ株式会社
 共催:パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社
 シスコシステムズ合同会社
 (東京)詳細・申込:
<https://event.panasonic-denkois.co.jp/public/seminar/view/183>
 (大阪)詳細・申込:
<https://event.panasonic-denkois.co.jp/public/seminar/view/181>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

最近「ステーブ・ジョブス 1ーウォルター・アイザックソン (著)、井口 耕二 (訳) 講談社」が発売になりましたが私も早速購入しました。冒頭の“はじめに”において著者は、彼の“クリエイティブなアントレプレナーの、ジェットコースターのような人生、そしてやけどをしそうなほど熱い個性”をありのままに描くとともに、イノベーションの書としても読んでもらいたいと述べています。私は、今半分読み終わったところですが、彼の生い立ちと人となり分かり大変興味深く読んでいます。

それでは次号もよろしくお願ひ致します。

橋本 啓介